

「“Music for Peace” ～音楽と平和について考えるワークショップ～音楽を通じた平和発信」を開催

日時：2019年2月23日（土） 18:00 - 20:00

場所：JMS アステールプラザ オーケストラ練習場

参加者：80名

「“Music for Peace” ～音楽と平和について考えるワークショップ～音楽を通じた平和発信」（主催：文化庁・公益社団法人広島交響楽協会、共催：広島大学平和センター・広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座）を開催しました。

ワークショップは、3つの演奏と2つの講演、パネルディスカッションという構成で、パリ管弦楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、広島交響楽団の皆さんによる「アイネ・クライネ・ナハトムジーク（モーツァルト）」の演奏の後、Michael MORAN氏（在ワルシャワジャーナリスト・作家）による講演「広島ーワルシャワーショパン」、Robert MARKOW氏（ジャーナリスト・元モントリオール交響楽団ホルン奏者）による講演「日本のオーケストラと広島交響楽団の Music for Peace」を行いました。その後、広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座の学生によるユーフォニアム・チューバ五重奏「The Times（高橋宏樹）」とクラリネット三重奏「Ventus（石毛里佳）」の演奏の後、「音楽を通じた平和発信」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、モデレーターの広島大学平和センター副センター長/広島大学大学院国際協力研究科副研究科長の片柳真理教授が、音楽が平和に貢献している事例を紹介した後、パリ管弦楽団の Nadia Mediouni 氏、広島交響楽団の後藤絢子氏、広島大学大学院国際協力研究科博士課程後期 MARTE HARMOND PEDROSA 氏がパネラーとして登壇した。音楽が平和構築にいかに関与するかについて、聴衆を交え、熱心な議論が交わされました。



パリ管弦楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、広島交響楽団の皆さんによる演奏
「アイネ・クライネ・ナハトムジーク (モーツァルト)」



Michael MORAN 氏 (在ワルシャワジャーナリスト・作家) による講演
「広島ーワルシャワーショパン」



Robert MARKOW 氏 (ジャーナリスト・元モントリオール交響楽団ホルン奏者) による講演「日本のオーケストラと広島交響楽団の Music for Peace」



広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育學講座の学生によるユーフォニアム・チューバ五重奏「The Times (高橋宏樹)」



広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育學講座の学生によるクラリネット三重奏
「Ventus (石毛里佳)」



パネルディスカッション
「音楽を通じた平和発信」